

# ちっごとともに歩む

## 筑後大堰管理開始40年



### 事業の目的と成果

筑後大堰は、筑後川の河口から約23km上流に、洪水疎通機能の確保、塩害の防除、新規水道用水の確保、取水位の安定を目的として建設された可動堰で、昭和60年の運用開始から40年を迎えました。

### ～ちっごとともに歩む～

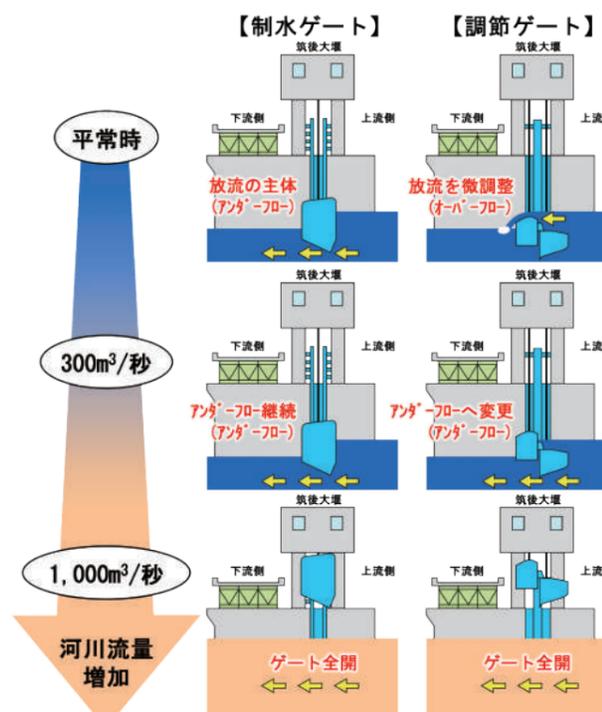


カニ太郎と40周年ロゴ、キャッチコピー



筑後大堰の湛水域に福岡導水(水資源機構)、福岡県南広域水道企業団、佐賀東部水道企業団、筑後川下流用水(水資源機構:福岡県・佐賀県の2カ所の取水口)が取水口を設けており、筑後川の自流及び上流域や筑後大堰で開発された水を安定的に取水することで筑後川の恩恵を受けています。

また、洪水時にはゲートを堤防の高さよりも高く引き上げて洪水流下の阻害とならないようにし、平常時においては上流水位を一定に保つようにすることで、流水をゲートの下側から流すアンダーフローを主体とした操作により上流から流れてくる栄養塩や土砂を湛水域内にとどめないようにしつつ、塩水を遡上させない操作を行っているほか、水量、水質、環境に関する情報を提供し、きめ細やかな管理を行っています。



筑後大堰の操作イメージ

### 筑後大堰と事業の実績

筑後大堰の湛水域から、水資源機構事業として福岡導水と筑後川下流用水が取水しています。



### (1) 利水

#### ①福岡導水

昭和58年に暫定的に通水を開始し、福岡都市圏及び佐賀県三養基郡基山町への水道用原水として、最大毎秒 2.767m<sup>3</sup>を供給しています。令和5年に導水開始40年を迎えましたが、これまでの供給実績は約26億m<sup>3</sup>となっており、現在では福岡都市圏の水の約3分の1は筑後川に依存する状況となるなど、福岡導水は重要なライフラインとなっています。

平成6年の大渇水では、福岡管区気象台の年間降水量が観測史上最も少なく、昭和53年を上回る厳しい気象状況でしたが、平成6年の渇水時の給水制限時間は昭和53年の渇水時に比べると少なく、給水時間中の蛇口給水が確保され、給水車の出勤もありませんでした。これは、市民の皆様の節水意識の高揚と節水行動、筑後川水系における水資源開発と福岡導水による導水のほか、流域全体の関係者の協力の賜によるものです。

現在、大規模な地震の発生に対し、施設に必要な耐震性能を確保するとともに、老朽化が顕著な施設の補修を行い、将来にわたる水道用原水の安定供給を図るため、福岡導水施設地震対策事業を行っています。



福岡導水揚水機場

## ②筑後川下流用水

筑後川下流用水事業は、福岡県及び佐賀県の筑後川下流地区約31,000haの農地に農業用水を供給し、地区内に散在するクリークの統廃合による大規模な用排水系統の再編成、淡水(アオ)取水の合理化、用水不足の解消を図るとともに、農業の近代化、農業経営の合理化を図ることを目的として実施されたもので、平成10年から管理を開始しています。これまでの累計取水量は約28億 $m^3$ (筑後取水口:約17億 $m^3$ ・佐賀取水口:約11億 $m^3$ )となっており、筑後川下流域の農業経営の安定と生産性の向上の確立に貢献しています。令和5年度からは総合対策事業として、施設の地震対策、老朽化対策、クリーク法面对策の事業を行っています。



筑後川下流用水 佐賀取水口

## (2) 洪水疎通機能の確保・塩害の防除

筑後大堰の建設により洪水疎通能力を毎秒9,000 $m^3$ に増大させるとともに、出水時に洪水を安全に流下させるため、堰上流の水位や潮汐の影響を含む堰下流の水位等を把握し、堰ゲート等の操作を行うことにより、沿川地域の洪水被害の防止・軽減に貢献しています。また、有明海及び筑後川下流の漁

業の支障となる洪水時に漂着した大量のごみや流木を除去しているほか、堰下流水位が堰上流水位を上回るときは逆流防止操作を行っています。



河川ゴミ漂着状況(令和7年10月5日)

## 事務所の活動

## (1) 環境への取り組み

筑後大堰には、堰下流の魚類が上流へ移動できるように魚道を設置しています。毎年、魚道で遡上する稚アユ等の調査を実施しています。

また、筑後川の水量が増量すると、大量のゴミが筑後大堰に流れ着きます。ゴミ集積場を設置し、ゴミの除去をすることで、施設への障害をなくすとともに、筑後川下流域及び有明海の環境改善にも寄与しています。

## (2) 清掃活動

有明海地区の漁業環境の保全を図るため漁業関係者などと連携して毎年行われている「有明海クリーンアップ作戦」、

「筑後川一斉清掃(ノーポイ運動)」のほか、筑後川花火大会前後の清掃など地域の清掃活動などを流域の皆様と共に実施し、地域や事業関係者の方と相互理解と交流の輪を広げています。

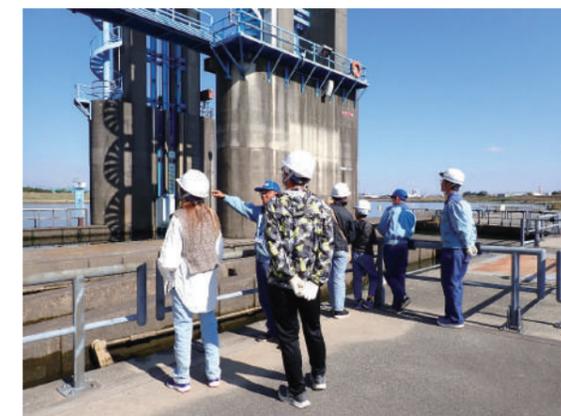


清掃活動

## (3) 40周年事業

筑後大堰管理40年を迎え、ロゴマークシールを貼付したダムカードの配布を行っています。

また、10月から11月にかけて計3回(うち1回は応募多数による追加開催)の特別見学会を開催し、計47名の方に参加いただきました。見学会では、普段は立ち入ることができないゲート開閉機室等を案内し、治水、利水の役割に加え魚道や河川ゴミ対策等の環境への配慮についても知っていただきました。参加者からは「普段見られない場所を見ることができ非常に面白かった。」等のコメントをいただきました。さらに、40周年企画動画を作成しYouTubeで公開しています。



特別見学会

## 【40周年企画動画】



(空からみた筑後大堰)



(2025年筑後大堰アユ遡上の記録)

## 【40周年ダムカード】



## これからの筑後大堰

筑後大堰は昭和60年4月より管理を開始し、令和7年4月に管理開始40周年を迎えました。関係者の方々に感謝すると共に、これからも防災、水の安定供給、環境保全を通じて、豊かな社会の構築に貢献してまいります。

## コラム column

## 日本住血吸虫病の撲滅

日本住血吸虫病は筑後川流域における風土病であり、宮入貝という貝の中で育った住血吸虫(セルカリア)が人間の皮膚から体内に入り込んで寄生し、場合によっては死に至る恐ろしい病です。この地域でミヤイリガイ撲滅対策の中心となったのが「筑後川流域宮入貝撲滅対策連絡協議会」(以下「協議会」)(会長:水公団筑後川開発局長、事務局:筑後川開発局)です。当時、河川にも多数の宮入貝が生息していたことから、本病の克服のためのミヤイリガイ撲滅は是非とも達成しなければならない課題でした。

宮入貝の撲滅のため、福岡、佐賀両県で昭和25年度から昭和57年度にわたり総延長約726kmの水路整備、筑後大堰建設事業の河川敷を乾陸整備するほか、巡回視察、生息確認調査など約23年間の長きにわたり活動しました。

この活動によるミヤイリガイ撲滅を受けて(厚生省が示した無病地判定基準・貝未確認8カ年以上)、平成2年3月に「安全宣言」が出されました。このように、筑後大堰事業は地域の風土病の根絶にも貢献しています。



宮入貝供養碑

## 読者モニターの皆さんと巡る「福岡導水・筑後大堰」見学会 — 現場で感じた“水を支えるしくみ” —

令和7年11月29日(土)、広報誌「水とともに」読者モニターの皆さまとともに、福岡県内にある福岡導水施設と筑後大堰をめぐる見学会を開催しました。

水資源機構では、広報誌をよりよいものにするため、毎年、読者モニターの皆さまと意見交換の場を設けています。今年も交流機会を通じ、今後の参考となる読者目線からのたくさんの貴重なご意見をいただきました。



### 👁️ 地震対策事業の最前線で工事の迫力を体感

福岡導水施設地震対策事業の2号トンネル併設水路上下口区と思案橋併設水路工事現場を訪問。

水路トンネルの坑口部分で説明を受けた後、一般の方は普段入ることができないトンネル内部の工事現場を見学。現場ならではの緊張感に包まれながらも、参加者からは専門的な話題に対しても質問もたくさん出されました。



### 👁️ 思案橋併設水路工事現場 — 推進工事の迫力を体感



思案橋併設水路工事現場では、推進工事を進める縦坑部分<sup>たてこう</sup>を見学しました。巨大な推進管や縦坑を覗き込んだときのスケール感に、参加者からは思わず「おお…!」と驚きの声が上がりました。また、普段は立ち入ることのできない工事現場での臨場感を感じながらの説明を受け、参加者の皆さまは真剣に説明を聞きながらも工事についての質問されるなど、現場ならではの学びを楽しまれている様子でした。

### 👁️ 筑後大堰で事業説明と意見交換会

最後の見学場所は、管理開始から40年を迎える筑後大堰。河川環境の保全、利水、治水など多様な機能を持つ筑後大堰の事業概要の説明を受け管理所屋上から大堰の全景を見学。川の流れや魚道の説明に「こんな仕組みがあったんですね」と感心する声が聞かれました。

施設見学の後、広報誌読者モニター意見交換会を行い、水資源機構の広報活動の現状の説明の後、広報誌「水とともに」の誌面構成についての感想、今後取り上げてほしいテーマ、水資源機構の広報活動へのご意見など、さまざまな視点から活発な意見が寄せられました。

終始、和やかな雰囲気の中にも、真剣に“水資源機構の広報”について向き合う姿が印象的で、広報課にとっても大きな励みとなる時間でした。



参加者のみなさまから、「次も楽しみにしています」、「来年は奥さんと息子で参加する」、「推進工事の見学はとて貴重な体験で心に残った」など、たくさんのうれしい感想をいただき、大変充実した見学会となりました。ご参加いただいた読者モニターの皆さま、本当にありがとうございました。

読者の皆様の御意見をふまえつつ、より親しまれる広報誌づくり、広報活動にとりくんでまいります。

